

他の教科も英語で学ぶ

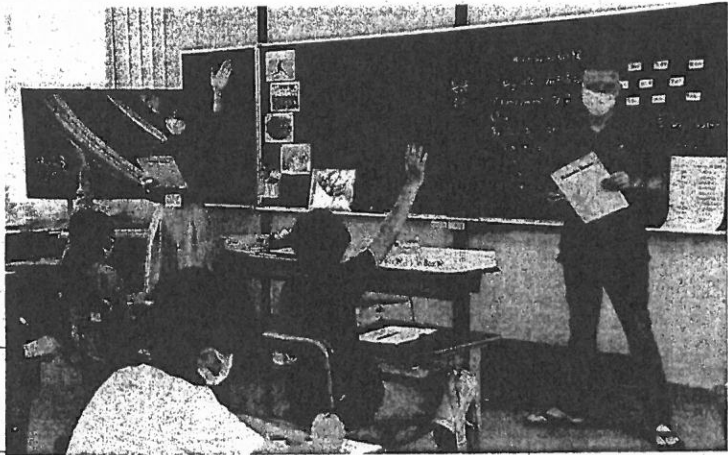


●7●

「ドゥー・ユー・ハブ・ア・ペンソーケース?」。真新しいランドセルが整然と並び、小学一年生の教室。緊張の面持ちの児童たちに、外国人教員がこやかに質問した。横にいた日本人教諭が「皆さん、筆箱は持っていますか」と、筆箱を指さした。椅子に座った二十二人が笑顔で筆箱を掲げる。「イエス!」

豊橋市八町小学校で本年度から本格的に、国語と道徳を除く全ての授業を英語で学ぶ選択制の「イマージョン教育コース」が始まった。昨年度は三年生の希望者のみ算数の授業で実施した。本年度から全校児童二百五十三人のうち九十六人がコースを選択。三

豊橋八町小・イマージョン教育 (上)



日本人の担任(左奥)と外国人の担任の2人で授業を受け持つ=豊橋市八町小で

十七人は他学区からの越境入学だ。一クラスは学年により八〜二十三人となっている。八町小の稲田恒久教頭(五〇)は昨年度まで、市教委の指導主事としてコース設置に奔走した。八町小が選ばれたのは市の中心部にあるにもかかわらず、小規模校で児童数減という事情を抱えているため

だ。

小規模校が生き残るために教育に特色を出し、希望すれば市内全域から通学できる英語の特認校として位置付けた。豊橋市はブラジルやフィリピン出身の労働者が多く、外国人児童が多いことから、「日本語がわからない外国人児童が授業についていけないようにしたい」とも想定した。

二〇〇五年十一月、内閣府は豊橋市を英語教育推進特区(当時)に認定。これを受け、市内では小学三年以上で総合的な学習の時間の一部に英語教育を取り入れた。さらに、一七年度にはモデル事業として八町小で体育や図工などの技能教科を英語で教える育の現場を取り上げます。

シリーズ「まなびの風景」第三弾は今春、豊橋市の八町小で始まったイマージョン教育の現場を取り上げます。



イマージョン教育 カナダで1960年代に始まり、外国語を自然に習得することを狙う。国内では90年代以降、静岡県沼津市の加藤学園暁秀初等学校(小学校)など私立小を中心に実施例があるが、文部科学省によると、公立小では珍しい。2005年から公立小として先駆的に取り組んでいる岡山市石井小でも、主要教科では実施せず、図工などにとどめている。「イマージョン」は英語で「浸された状態」の意味。文字通り、児童は「英語漬け」になる。

オ左原から、最近のE2語で授業をする「I組」とイマージョン教育を実施する「A組」の一学年二クラス制にした。五月二十五日から本格的に授業を開始した。

イマージョン教育のクラスには日本人の担任教諭のほか、「NET(Native English Teacherの略)」と呼ばれる外国人の担任がつく。

両者はコミュニケーションを取り、日本人教諭がサポートしながら授業を進める。基礎学力の低下や、通常学級との差が出ないように大切なポイントや概念は、日本語でも教えている。(昆野夏子)

授業の準備は試行錯誤

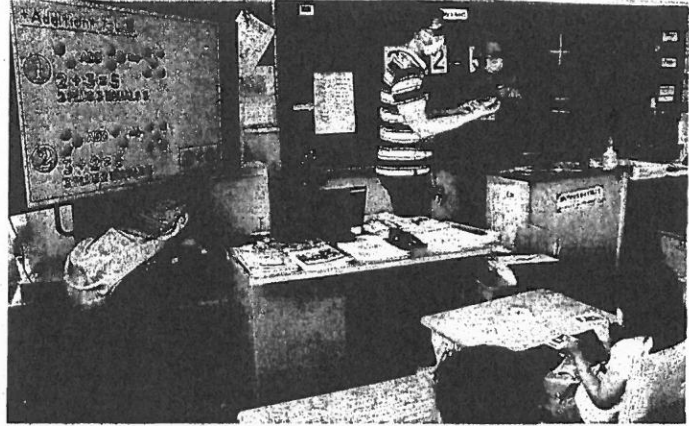


● 8 ●

新型コロナウイルスの影響で休校が続いていた豊橋市内の小学校でも通常の授業が五月二十五日、再開した。それは、英語で授業をする「イマージョン教育コース」を本年度から本格実施する八町小も同じ。新たな教育に臨む教師たちにとっても、試行錯誤の毎日がスタートした。

初日の五月二十五日、イマージョン教育コースの四年生の教室。教室の窓際にゴーヤの鉢植えがあった。置いたのは担任の安井美千代教諭。「理科で、『日光と水で植物が育つ』という概念を英語で教える際に、現物があると教えや

豊橋八町小・イマージョン教育 ④



すいし子どもの反応も良い」と説明する。

三年生のクラスでは、児童の興味を引くため、担任が手作りした数字や記号のカードを使っていた。算数の時間にクラスで取り上げられた計算は「 $2+3$ 」。児童は外国人担任と「ツ、ポイント、スリー、イコール、ファイブ」と元氣

④ 足し算を学ぶ算数の授業
⑥ 外国人の担任から英語で図形問題を教わる児童
いずれも豊橋市八町小で



よく声に出した後、「足すは『ポイント』、掛け算は『タイムス』です」と日本人の担任から説明を受けた。

授業には工夫だけでなく、物理的な準備も当然、必要となる。六年担任の彦坂悠仁教諭のノートには教科書のコピー。重要単語や生徒との想定問答などが、

ていた。例えば、線対称や点対称の図形について英語で説明するのは容易でない。
「正直、普通の授業よりは準備の時間がかかってしまいます。でも、トライアンドエラー、です。生徒の『分かった』という顔が見られてうれしいのは日本語でも英語でも一緒」

三年の黒田真優さん(仮)は「計算自体は簡単だけど、英語でとっさに言うのはなかなか難しい。でもカードを使って練習したいな」。四年の今野紗良さん(仮)は「英語で分からなかったら日本語で聞いて大丈夫と先生に言われた。自分から質問すればいいかな」と話す。

国語と道徳を除く授業のほか、学級目標や係、当番決めも英語で進めるイマージョン教育コース。公立では珍しい八町小のコースは今後、どんな成果を生み、どんな課題が出てくるのか。結果が見えるのはまだ先のことだ。

(昆野夏子)

教科書英訳 実地で改良

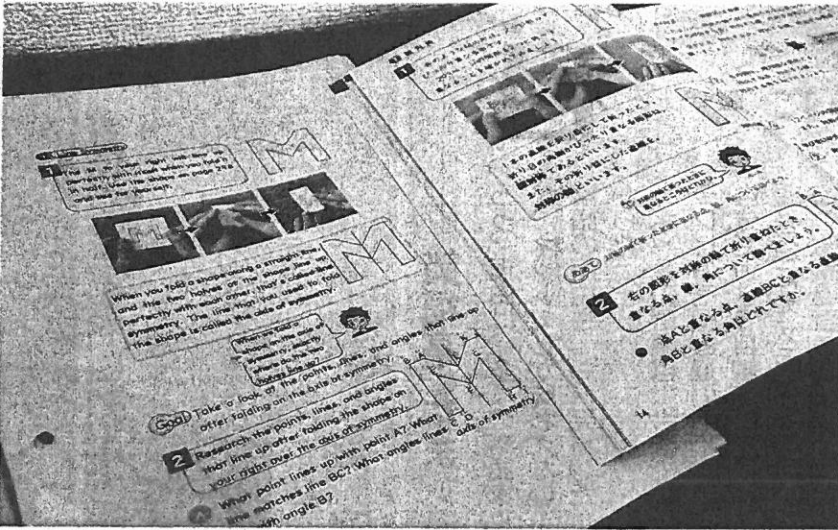


● 9 ●

国語と道徳を除く全ての教科の授業を英語でする「イメージョン教育コース」が本年度から本格設置された豊橋市八町小学校。一般的な公立小学校とは異なる新たな取り組みでは、意外なことも必要となる。その一つが教材作りだ。

小学校で児童に無償配布される教科書は日本語。イメージョン教育コースの児童にも当然、この教科書が手渡される。しかし、コースでは、通常の教科書以外に、日本語部分を英訳した

豊橋八町小・イメージョン教育 ⑦



教材「補助プリント」が必要となる。

「昨年十月ごろから本年度の1～6年生分の算数、理科、社会科の教材作りが

6年生の算数の教科書と英訳された補助プリント＝豊橋市八町小で

始まりました」。昨年度からイメージョン教育コースでイネーターを務める酒井順子さん(四三)はそう振り返る。

教材作りを担うのは酒井さんと二人の外国人教員の三人。例えば、算数では「fraction(分数)」「denominator(分母)」「numerator(分子)」といった基本的な単語を黄色や赤色で囲んで目立つようにするなど、工夫を重ねながらの取り組みだ。

五月末時点で全学年の一学期分と一～三年の二学期分の教材はできあがり、現在は四年生の教科書に取りかかっている。酒井さんは「まだまだ先は長いですが、授業の様子や生徒の反応も見ながら改良していま

す」。酒井さんたち三人は教材のほか、英語による学内掲載します。

示物なども製作している。水道に掲げられた手洗いの方法を書いた紙、廊下に張られた「走らないで」のポスター、「職員室」を示す札…。

これらも昨年度から徐々に作業を進めてきた。日常的に目に触れる物を英語にしていき、日頃から目にすることで児童に自然に覚えるつもりだ。

豊橋市内の別の学区から四年生に転入した女兒(九)の母親(四七)は「本人が将来外交官になりたいと言っている。やりたがっているからとりあえず挑戦させてみようかな」と説明する。

イメージョン教育コースの結果が表れるのは、おそらくずっと先のことだが、八町小の佐藤充宏校長(五七)は「今できることに、教員も児童も一丸となって取り組みたい」と話している。

(昆野夏子)

まなびの風景は、随時掲載します。